

令和元年度 森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート

※○数字は、「令和元年度(2019年度)みんなで支える森林づくりレポート」の資料番号

【目次】

① みんなで支える里山整備事業	・・・	1
② 道路への倒木防止事業	・・・	2
③ 里山整備方針作成事業	・・・	3
④ 河畔林整備事業	・・・	4
⑤ 県民協働による里山整備・利用事業	・・・	
・里山整備利用地域活動推進事業	・・・	5
・里山資源利活用推進事業	・・・	6
⑥ 地域で進める里山集約化事業	・・・	7
⑦ 地消地産による木の香る暮らしづくり事業	・・・	
・「子どもの居場所」木質空間整備事業	・・・	8
・木工体験活動支援事業	・・・	9
・県産材公共サイン整備事業	・・・	10
⑧ 薪によるエネルギーの地消地産推進事業	・・・	11
⑨ 松くい虫枯損木利活用事業	・・・	12
⑩ 里山整備利用地域リーダー育成事業	・・・	13
⑪ 森林セラピー推進支援事業	・・・	14
⑫ エコツーリズムガイド人材育成事業	・・・	15
⑬ 自然教育・野外教育推進事業	・・・	16
⑭ 学校林等利活用促進事業	・・・	17
⑭ 自然保育活動フィールド等整備事業	・・・	18
⑮ まちなかの緑地整備事業	・・・	19
⑯ 観光地の景観整備（県単道路橋梁維持修繕費）	・・・	20
⑯ 観光地等魅力向上森林景観整備事業	・・・	21
⑰ 森林づくり推進支援金	・・・	22
⑱ みんなで支える森林づくり推進事業	・・・	23
⑲ 森林（もり）の里親促進事業	・・・	24
⑳ 地球温暖化防止木材利用普及啓発事業	・・・	25
㉑ 地球温暖化防止吸収源対策推進事業	・・・	26

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	①みんなで支える里山整備事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備	実施期間	H20～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の影響等で局地的な豪雨等による土砂災害や流木被害等が増加しており、こうした災害を防ぐための森林整備は喫緊の課題。 ・また、過疎・高齢化が進む山村地域で里山管理の空洞化を抑制するためには、地域住民等による自立的・持続的な森林の利活用が重要。
目指す姿・成果目標	①防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐等 概ね4,300ha程度/5年間 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 概ね1,500ha程度/5年間 ③安全が確保される主要なライフライン等 概ね55箇所程度/5年間 【取組により期待される効果】 間伐材の搬出量の増加、森林整備の実施を通じた防災意識の向上、地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・未整備の里山のうち、科学的知見に基づき「防災・減災」の観点から優先的に整備が必要な森林の間伐を推進 ・長野県ふるさと森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」において、住民協働による里山の整備・利活用を促進 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	①防災・減災のための間伐等 ②県民協働による里山の整備・利活用 ③ライフライン等保全対策	市町村、森林組合、NPO法人、森林所有者の団体等	①防災・減災のための間伐等 803ha (R元当初:66ha、H30繰越:737ha) ②県民協働による里山の整備等 59ha (R元当初:52ha、H30繰越:7ha) ③ライフライン等保全対策 63箇所 (R元当初:63箇所)	409,868,300円 [348,826,300円]

事業	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		事業 コ ス ト	予算額	前年度繰越	321,508	360,439	26,468	
国費	116,806			0	0		116,806	
森林税	295,648			201,550	455,000		952,198	
合計	733,962			561,989	481,468		1,777,419	
事業	決算額	国費	3,968	0			3,968	
		森林税	48,047	167,139			215,186	
		小計	52,015	167,139			219,154	
		前年度繰越分	321,508	242,729			564,237	うち森林税 394,749千円
	合計	373,523	409,868			783,391		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①防災・減災のために必要な里山の間伐 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 ③ライフライン沿い等の危険木の伐採	目標値	①	1,290ha	1,800ha	950ha		4,300ha	
		②	150ha	232ha	303ha		1,500ha	
		③	—	18箇所	27箇所		55箇所	
	実績値	①	115ha	803ha			918ha	
		②	18ha	59ha			77ha	
		③	—	63箇所			63箇所	

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・集落周辺に位置する森林の多面的機能の回復・維持・増進を図るために間伐803haを実施した。 ・里山整備利用地域において、森林と地域との関係性を再生し、自立的・持続的な森林管理の構築を図るための整備を実施した。 ・市町村からの要望に基づき、特に重要とされるライフラインの保全を図るため、危険木の伐採を実施した。 (副次的な効果) ・地域における課題解決に資する森林整備に支援することができた。
--------------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災のため積極的に事業を実施していただきたい。 ・間伐が進まない要因を総合的に捉え、検証されたい。 ・ライフライン等保全対策は積極的に取組みがなされ、有効活用が図られている。
------------------------	---

3 今後の事業の方向性

	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
今後、事業をどのようにしていきたいか	課題	今後の方向性
	地域の課題等を的確に捉え優先的に整備が必要な箇所と、地域の事業実施体制との調整を図る等、継続的に支援していく必要がある。	令和元年度から新たに取組みを始めたライフライン等保全対策への対応を含め、地域のニーズと事業実施体制の的確な把握及び調整を図り、現地機関と協力して引き続き地域への支援を継続していく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	②道路への倒木防止事業	部局	建設部	課・室	道路管理課
		実施期間	R1 ~	E-mail	michikanri@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 道路管理区域外(山林)の立木は所有者による手入れが不十分で間伐がなされておらず、倒木の恐れがある危険木が多い。 台風等の異常気象時に倒木による通行止めが発生している。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 県管理道路沿線の道路区域外の危険木伐採 概ね15箇所程度/5年間【取組により期待される効果】 危険木伐採により倒木による通行止めリスクの低減を図り、災害時の主要なライフラインが保全され、県民生活の安全・安心が確保される。

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	異常気象時等に県管理道路沿線の道路区域外から道路へ倒伏する恐れのある危険木の伐採			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	道路への倒木防止(危険木伐採)	長野県	危険木伐採 9箇所	60,000,000円 [60,000,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越			0	0		
予算額	当初予算		30,000	45,000			75,000	
	補正予算		30,000				30,000	
	合計(A)		60,000	45,000			105,000	
Aの財源	森林税		60,000	45,000			105,000	
	国庫支出金		0	0			0	
	その他		0	0			0	
決算額(B)			60,000				60,000	
次年度への繰越額(外数)			0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①道路への倒木防止	目標値	①	8箇所	8箇所			15箇所		
		②							
		③							
	実績値	①	9箇所					9箇所	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年の台風等で道路への倒木被害があった路線やその周辺で危険木の伐採を行い、倒木の未然防止により通行止めリスクを低減しライフラインの保全を図った。 <p>(副次的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の実施箇所では森林づくり県民税を活用している旨の看板等の設置を行い、森林づくり県民税の周知及び理解の推進にも取り組むことができた。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 法面から道路へ木の枝が垂れ下がっている箇所は雨の日など気になるので、枝払いや伐採などの取り組みを続けてほしい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 初年度であったが、過去の倒木被害箇所を参考に効果的な伐採が実施できた。 地権者との調整等に時間を要し、伐採時期が冬期になる箇所もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路パトロール等において優先的に伐採が必要な箇所を選定し、異常気象時等の倒木による通行止めの未然防止に継続的に取り組んでいく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	③里山整備方針作成事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	2期10年の森林税事業により、30,852haにわたる里山の森林整備を実施してきたものの、未だ整備がされていない森林が残っている。
目指す姿・成果目標	里山整備方針の作成により、「防災・減災」の観点から優先的に森林整備を要す箇所の見える化を図る。 【成果目標】 里山整備方針の作成 120地域/5年間

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	「防災・減災」の観点から、航空レーザー測量等の科学的知見を活用して、優先的に森林整備を行う必要がある箇所を抽出・点検により明らかにし、方針として図面にまとめ、見える化を図った。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	・立木調査、現地調査 ・地域との協議 ・里山整備方針の作成等	・市町村 ・森林整備協議会等 (市町村が参画するものに限る)	・補助事業で実施 19地域 ・市町村が独自で実施 11地域 ・上記のうち新規作成 16地域	5,037,000 円 [5,037,000 円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0				0
予算額	当初予算	25,200	14,700				39,900	
	補正予算	-16,000	-3,500				-19,500	
	合計(A)	9,200	11,200				20,400	
Aの財源	森林税	9,200	11,200				20,400	
	国庫支出金	0	0				0	
	その他	0	0				0	
決算額(B)		5,374	5,037				10,411	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①里山整備方針の作成地域数	目標値	①	120地域				120地域	目標値は120地域/5年間 (旧市町村単位)	
		②							
		③							
	実績値	①	84地域	16地域				100地域	実績値は新規作成の地域
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 69市町村103地域で取り組み、100地域で里山整備方針を作成(3地域は優先的に整備を要す箇所なし) (副次的な効果) ・優先整備箇所を示すことで住民の森林整備に対する関心を高めるとともに、森林整備を通じた暮らしの安心・安全な地域づくりに寄与 ・森林税の取組の見える化
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	なし
-----------------	----

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・里山整備方針を作成した地域によって、優先整備箇所を広く設定している所もあれば、森林整備を行う箇所に絞った狭い優先整備箇所を設定している所とが混在している。	・補助事業は廃止し、これから取り組む16地域に助言・協力していく。 ・令和元年度から取組を開始したライフライン等保全対策の実施箇所についても、里山整備方針に位置付ける。 ・里山整備方針を作成した地域においても、現地調査等により、引き続き、優先整備箇所を精査する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	④河畔林整備事業	部局	建設部	課・室	河川課
		実施期間	H30～	E-mail	kasen@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	・河川区域外の民地等の立木(河畔林)は、所有者による手入れが不十分で間伐がなされておらず、細く倒れやすい木が密生し、豪雨時に倒れ流出し、橋梁部で川をせき止めるなど、水害の発生要因となる恐れがある。
目指す姿・成果目標	・防災強化が必要な河畔林の整備 概ね45箇所程度/5年間(県管理河川)、概ね75箇所程度/5年間(市町村管理河川)

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	・防災強化が必要な河畔林のうち、災害時の危険性が高い箇所の河畔林の除間伐を推進			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	・河畔林の整備	長野県、市町村	県管理河川の河畔林整備 20箇所 (R元当初16箇所、H30繰越4箇所) 市町村管理河川の河畔林整備 23箇所 (R元当初23箇所)	128,464,400円 [128,464,400円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	20,286	4,313			24,599
当初予算		112,500	112,500	178,650			403,650	
補正予算		-5,600	0				-5,600	
合計(A)		106,900	132,786	182,963			422,649	
Aの財源	森林税	106,900	132,786	182,963			422,649	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		83,141	128,464				211,605	
次年度への繰越額(外数)		20,286	4,313				24,599	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①県管理河川の河畔林の整備 ②市町村管理河川の河畔林の整備	目標値	①	9箇所	13箇所	14箇所		45箇所	R2にR元からの繰越1箇所含む
		②	15箇所	15箇所	22箇所		75箇所	
		③						
	実績値	①	13箇所	20箇所			33箇所	
		②	21箇所	23箇所			44箇所	
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・計画的に事業を実施し、成果目標を達成することができた。 (副次的な効果) ・河畔林を除間伐したことで、農村風景の景観向上や市街地への獣の移動経路阻害対策に繋がる等の効果が得られた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	・河畔林の生態系、環境に配慮して事業を進められたい。 ・防災・減災のため、事業拡充して継続していただきたい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・事業規模が小さい箇所があったこと等により、予算に対して執行残額が生じた。	・個別事業のフォローアップを実施し、年度計画の前倒し等の調整も行い事業を進める。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑤県民協働による里山整備・利用事業 (里山整備利用地域活動推進事業)	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	過疎化・高齢化が進む山村地域で里山を保全するには、地域住民等による里山の多面的な利活用を進め、管理の空洞化の抑制につながるような権利の調整を行いつつ、間伐等の整備を推進することが有効であり、こうした活動を県内全域で展開していくことが必要。
目指す姿・成果目標	住民協働による里山の整備を促進するとともに、木材利用をはじめとする多面的な森林資源の利活用を進めることで、森林と地域の関係性を再生し、自立的・持続的な長野県独自の森林管理を構築する。 【成果目標】 里山整備利用地域の認定 約150地域/5年間

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	里山整備利用地域における地域住民等の主体的な参画により、薪利用や森林を活用した教育活動など、里山の整備・利活用を推進。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	森林を活用した地域活動 (森林の調査、研修会、調査・計画作成等)	里山整備利用推進協議会	40地域	23,731,000 円 [23,731,000 円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0			0
当初予算		9,800	18,050	44,000			71,850	
補正予算		-3,000	0				-3,000	
合計(A)		6,800	18,050	44,000			68,850	
Aの財源	森林税	6,800	18,050	44,000			68,850	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		4,744	23,731				28,475	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①里山整備利用地域の認定	目標値	①	50地域	52地域	30地域		150地域	目標値は約150地域/5年間
		②						
		③						
	実績値	①	42地域	36地域			78地域	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 里山整備利用地域は78地域となった。 認定された39地域では、里山整備利用地域活動推進事業が活用され、森林整備、薪やキノコ生産、遊歩道の整備、竹林整備、森林体験活動、獣害対策等が実施された。 (副次的な効果) 近隣の里山整備利用地域での地域活動に触れ、新たに里山整備利用地域の認定や地域活動に取り組もうとする兆しが見られる。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	・3年間の上限額が決まっていた方が取組内容を絞り込める。 ・3年間の補助の終了後も、予算的にフォローの仕組みがあった方が良い。 ・制度が地域に上手く伝わっていない。地域振興局が地域の人に取組を見える形で発信できれば広がるのではないかと。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・里山整備利用地域活動推進事業の実施期間中(各地域累計3ヶ年度)に地域活動を軌道に乗せ、補助金が無くても活動が継続できるよう、長期的な視点に立った活動の展開が必要である。	・住民協働による里山の整備の動きや兆しが見られる地域に対して、地域住民が主体的に参画し、自立的・持続的な活動が展開されるように支援していく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑤ 県民協働による里山整備・利用事業 (里山資源利活用推進事業)	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 山村地域の里山の保全には、地域住民等による里山の多面的な利活用を進め、管理の空洞化を抑制しつつ森林整備を図ることが重要。 住民共同による里山の整備を促進するとともに、木材利用や、教育、観光等の多面的な森林資源の利活用を進める事で、森林と地域の関係性を再生し、自立的・持続的な長野県独自の森林管理を構築していく事が必要であり、資機材の導入支援や遊歩道の整備も必要。
目指す姿・成果目標	里山整備利用地域の認定 約150地域/5年間 【取組により期待される効果】 ・間伐材の搬出量の増加、路網整備の促進 ・里山を活用した副業の展開等による山村経済の活性化、人材育成 ・地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	・里山の資源を有効に活用し地域に還元する仕組みづくりを進めるため、自立的・持続的な管理体制の構築に必要な資材の導入等を支援した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	資機材等の導入(チェーンソー、薪割り機、簡易ウインチ、移動式トイレ等)遊歩道の整備	里山整備利用推進協議会	里山整備利用地域の認定 36地域 事業利用地域 11地域	8,515,000円 [8,515,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0			0
当初予算		33,750	26,350	22,050			82,150	
補正予算		-26,000	-17,450				-43,450	
合計(A)		7,750	8,900	22,050			38,700	
Aの財源	森林税	7,750	8,900	22,050			38,700	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)	7,111	8,515				15,626		
次年度への繰越額(外数)	0	0				0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
① 里山整備利用地域の認定	目標値	①	50地域	52地域	30地域		150地域	目標値は約150地域/5年間
		②						
		③						
	実績値	①	42地域	36地域			78地域	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況)	・認定利用地域のうち、11地域で里山整備に必要な初期の資機材導入等(薪割り機、簡易ウインチ、ウッドチップパー、刈り払い機、チェーンソー、歩道整備等)に対して、支援を行った。
	(副次的な効果)	・里山の利活用を実施していく上で課題となっていた資機材の導入に対して支援を行ったことで、地域住民による里山利活用機会の増加につながった。

県民会議・地域会議等からの意見	・地域で活動が行われていることについて、各地域振興局が上手い広報ツールを使って見える可すれば、より活性化が進むのではないかと。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	本事業は、認定後1回のみでの支援であること、支援を受ける際には自己資金も必要となることから、活用を慎重に検討している地域が多かった。	里山整備に必要な資機材等の迅速な導入を図るため、令和2年度からは、認定後1回のみでの支援から、累計で上限事業費になるまで複数回支援できるように変更する。 各地域の課題を踏まえつつ、里山整備利用地域の活動が自立的・持続的な取組となるように各地域の林業普及指導員が主体的となりアドバイスしながら事業を推進する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑥地域で進める里山集約化事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備	実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 里山の小規模個人有林等の整備を効率的かつ効果的に進めるためには、境界の明確化や森林所有者の同意取得を行い、施業を集約化するための条件整備が必要。 所有者の不在村化や境界の不明瞭などにより施業の集約化が困難な場合も存在するため、小規模個人有林等の整備を推進することが必要。
目指す姿・成果目標	防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐等 概ね4,300ha程度/5年間 地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 概ね1,500ha程度/5年間 【取組により期待される効果】 ・森林整備の実施を通じた防災意識の向上(里山整備実施者の増加) ・里山を活用した副業の展開等による山村経済の活性化 ・地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	・小規模個人有林、不在村者所有森林等が多い里山の森林整備を推進するため、間伐事業実施地の森林所有者の合意形成等を推進した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 整備が必要な里山等の集約化 森林境界の明確化 	森林組合、森林所有者の団体等	・里山等の集約化 263ha ・森林境界の明確化 0ha	3,940,500円 [3,940,500円]

事業コスト	区分(単位:千円)		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	前年度繰越		0	0	0			0	
当初予算		14,400	8,000	5,600			28,000		
補正予算		-9,100	-3,700				-12,800		
合計(A)		5,300	4,300	5,600			15,200		
Aの財源	森林税		5,300	4,300	5,600			15,200	
	国庫支出金		0	0	0			0	
	その他		0	0	0			0	
決算額(B)		4,911	3,941				8,852		
次年度への繰越額(外数)		0	0				0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①防災・減災のために必要な里山の間伐 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 ③(参考)本事業による集約化実施面積	目標値	① 1,290ha	1,800ha	950ha			4,300ha	
		② 150ha	232ha	303ha			1,500ha	
		③ 900ha	500ha	350ha			—	
	実績値	① 115ha	803ha				918ha	
		② 18ha	59ha				77ha	
		③ 324ha	263ha				587ha	

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・小規模な個人有林等の集約化が里山整備におけるネックとなっている中、263haの森林において森林所有者の同意取得等を支援した。 ※本事業を使わずに、森林の集約化や森林整備を行う場合もある。 (副次的な効果) ・集約化に向けて地域の合意形成を進めたことで、地域ぐるみでの森林整備の重要性への理解が深まるとともに、防災意識が向上した。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	なし
-----------------	----

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	森林整備を行う箇所を特定する里山整備方針の作成や里山整備利用地域の認定は進んできたが、本事業による集約化は計画を下回り、所有者の同意取得が引き続き課題となっている。 また、集約化を行う林業事業者等からは、本事業を活用するための事務処理が負担になるとの声がある。	事業計画書の提出や森林整備の実施状況報告等の手続きを簡略化し、林業事業者等の事務負担の軽減を図る。 集約化実施後の要件としている「森林整備」は間伐に限定せず、下草刈や更新伐等多様な森林整備が可能であることを明確にし、地域のニーズや森林の現況に応じた柔軟かつ積極的な集約化を後押しする。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑦地消地産による木の香る暮らしづくり事業 （「子どもの居場所」木質空間整備事業）	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進				
	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 幼少期に木と触れ合うことは、情緒を安定させるなど子どもたちの成長により良い効果をもたらすとされていることから、児童センターや商業施設のキッズルーム等の「子どもの居場所」の木質化等を進めていくことが重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの居場所の木造・木質化：概ね25箇所程度／5年間 子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置：概ね150箇所程度／5年間 <p>【取組により期待される効果】</p> <p>県産材利用者の育成・県産材製品の販路拡大を通じた県産材利用の促進</p>

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	・事業主体が運営する保育園・幼稚園・子育て支援センター、複合商業モール・飲食店等のキッズスペース等の「子どもの居場所」について、木造化・内装木質化、木の調度品・おもちゃ等の設置を支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	①木造・木質化(補助率2分の1以内、上限補助対象事業費499万円) ②木の調度品・おもちゃ等設置(同4分の3以内、同50万円)	市町村、社会福祉法人、NPO法人、学校法人、工務店等	①9箇所 ②59箇所	20,908,077円 [20,908,077円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0			
予算額	当初予算	23,750	23,750	21,500			69,000	
	補正予算	-2,500	-2,841				-5,341	
	合計(A)	21,250	20,909	21,500			63,659	
Aの財源	森林税	21,250	20,909	21,500			63,659	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		20,579	20,908				41,487	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①子どもの居場所の木造・木質化 ②子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置	目標値	①	5箇所	5箇所	5箇所		25箇所		
		②	30箇所	30箇所	30箇所		150箇所		
		③							
	実績値	①	7箇所	9箇所				16箇所	
		②	57箇所	59箇所				116箇所	
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 保育園・幼稚園・児童センター等を中心に、木造・木質化、木の調度品・おもちゃ等の設置、いずれのメニューも目標の箇所数を上回る実績となった。 (副次的な効果) 令和元年度実施施設において、施設職員、施設を利用する子どもの保護者を対象にアンケート調査を行ったところ、約1,000名から回答があった。県産材利用への波及効果、子どもの情緒への影響に関する設問にプラス方向に評価する回答が寄せられた。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍を踏まえた県産材の需要拡大対策を進めてほしい。 森林税を活用し、工務店など建てる側への支援に取り組んでほしい。 幼少期から木造建築の良さが伝わるような取組を進めてほしい。 県産材を利用した環境整備が進みつつあるため、「木のある暮らし」が当たり前になればよい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 保育園・幼稚園・児童センター等のほか、不特定多数が利用する民間施設での事業実施が前年の約1割から3割に向上した。 第2次まで事業募集を行ったが、1箇所あたりの事業費が少額であることから予算に執行残額が生じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業周知の強化、事業募集開始時期を早める等の取組により、事業の効率的な執行に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑦地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (木工体験活動支援事業)	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	—				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 ・幼少期に木と触れ合うことは、情緒を安定させるなど子どもたちの成長に効果をもたらすとされていることから、県産材と身近に触れ合うための木製品づくり体験を支援していくことが重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・木工コンクール応募者数 概ね5,500人程度/年 【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成を通じた県産材利用の促進

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・県内全域の小中学生等を対象とした木工体験活動(木工コンクール、木工教室等)や、小中学校や地域団体が行う木や森への理解を深める木工体験活動を支援。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	①県域活動型(補助率4分の3以内・上限補助対象事業費105万円) ②地域活動型(同4分の3以内・同50万円)	①長野県木材青年団体連合会 ②市町村・学校・林業者団体・NPO法人等	①木工工作コンクールの開催支援等:1件 ②県内各地の木工体験活動の支援:27件	7,756,400円 [7,756,400円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0			
予算額	当初予算	7,050	8,550	8,250			23,850	
	補正予算	-150	0				-150	
	合計(A)	6,900	8,550	8,250			23,700	
Aの財源	森林税	6,900	8,550	8,250			23,700	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		6,692	7,756				14,448	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①木工コンクール応募者数	目標値	①	5,500人	5,500人	5,500人		5,500人		
		②							
		③							
	実績値	①	4,608人	4,307人				4,307人	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 木工工作コンクールには4307人の応募が集まり、一定の成果を上げることができたが、目標には達しなかった。 (副次的な効果) 子ども主体の活動であるが、付き添いの大人に対しても木工体験の場を提供することができ、県産材利用の意識醸成を図ることができた。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	なし
-----------------	----

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・地域活動型の事業の取り組みが少ない地域が生じている。	・特に地域活動型の事業実施が少ない地域での事業周知の強化を図りながら、引き続き県内各地での木工体験活動を支援するとともに、木工工作コンクールへの参加者の増加を図り、県産材利用者の育成を目指す。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑦地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (県産材公共サイン整備事業)	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 撤出した間伐材等を身近な環境で積極的に活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 本格的な“インバウンド大県”を目指しているが、県内観光地等の外国人観光客向け案内標識は十分に整備されていない。 森林県長野として、観光地や県産材の魅力を国内外に広くアピールしているとは言い難い状況。
目指す姿・成果目標	県産材の魅力を発信しつつ、外国人観光客等の利便性の向上を図る。 【成果目標】 県産材公共サイン等設置枚数:概ね250枚程度/5年間

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	事業を募集した結果、応募のあった箕輪町観光協会の案内標識6枚の作成を支援			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	県の方針に基づき、事業実施主体が設置する案内標識整備について、県産材利用を促すため、設計や製作に係る経費を支援	市町村 民間事業者等	案内標識6枚	178,750円 [178,750円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0			0
予算額	当初予算	10,540	10,000	23,025			43,565	
	補正予算	-7,000	-1,000				-8,000	
	合計(A)	3,540	9,000	23,025			35,565	
Aの財源	森林税	3,540	9,000	23,025			35,565	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		2,837	179				3,016	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①県産材公共サインの作成	目標値	① デザイン作成	63枚	63枚			250枚	H30年度は調査委託 R元年度以降は補助
		②						
		③						
	実績値	① 基礎調査	6枚				6枚	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 県産材を使用した外国人にも分かりやすい公共案内標識を1箇所6枚制作した。 (副次的な効果) 観光部や建設部と連携し、事業執行に係る仕組みを構築することができた。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	・長く使用できるように作成後の維持管理を行う必要がある。
-----------------	------------------------------

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・事業執行に係る仕組みの構築に時間を要したことから、事業者の募集が7月からとなったため、1か所の事業実施にとどまった。	・事業周知の強化、事業募集開始時期を早める等の取組により、事業の効率的な執行に取り組む。 ・建設部で新たに制定される「長野県案内標識整備指針」に基づく表記やデザインで、モデル性が高く波及効果が期待できるものを選定する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑧薪によるエネルギーの地消地産推進事業	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	再生可能エネルギー自給率				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 木材の地産地消や地消地産を推進する観点で、薪を流通させるための仕組みづくり等により里山資源をバイオマスエネルギーとして活用するための仕組みづくり等が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 薪流通の仕組構築モデル件数: 概ね10件程度/5年間 【取組により期待される効果】 身近な里山資源である薪が継続的に利用される仕組みを構築することにより、薪のさらなる普及を図り、里山の利活用を促進し、里山の持続的かつ自立的な維持管理を実現する。

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	県内1地域において、本事業により薪の流通システム構築への取組を実施した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 薪の先進地視察等 必要な機材の購入費 各種講習会・セミナーの開催 	市町村、NPO法人、公共的団体、林業者等が組織する団体等	四賀林研グループ	1,264,020円 [1,264,020円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0			0
予算額	当初予算	3,750	3,750	3,750			11,250	
	補正予算	0	-2,400				-2,400	
	合計(A)	3,750	1,350	3,750			8,850	
Aの財源	森林税	3,750	1,350	3,750			8,850	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		3,664	1,264				4,928	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①薪流通の仕組構築モデル件数	目標値	①	2件	2件	2件		10件		
		②							
		③							
	実績値	①	3件	1件				4件	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・目標2地域に対して1地域で事業実施し、目標は未達成 ・要望していた団体が次年度以降に実施することとなり、予定件数を実施できなかったため</p> <p>(副次的な効果) ・地域内資源の新たな活用が開始され、担い手育成、森林所有者との連携につながった。 ・薪だけでなく、地域内農産物を販売する活動も開始された。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	・各地域の取り組みをわかりやすく周知し、薪の地産地消の取り組みを助長することが必要である。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・各地域で薪利用に向け取組もうとしている事業主体に対し事業を周知し、事業実施を促すことが必要。	・令和3年度は要望調査の結果を踏まえ、事業の継続について検討。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑨松くい虫枯損木利活用事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	山林に放置され、有効活用されていない松くい虫枯損木の利活用が課題。枯損木は、水分が少ないため木質バイオマスの燃料チップとしての活用が有効。
目指す姿・成果目標	松くい虫被害51市町村で実施/5年間 【取組により期待される効果】 景観を損ねていた松くい虫被害林が整備されることで、他の地域の整備に対する意欲の高揚と木質バイオマス資源としての有効活用が促進。

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	市町村が行う対象森林の調査、松くい虫枯損木の伐倒・搬出、木質バイオマス燃料等の資源化に対する取組に支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	・松くい虫枯損木の伐倒 ・チップ化施設への伐倒木運搬	市町村	・事業面積:21.11ha ・事業規模:454.12m3	10,524,000円 [10,524,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0			0
当初予算		18,000	18,000	18,000			54,000	
補正予算		-11,434	-7,400				-18,834	
合計(A)		6,566	10,600	18,000			35,166	
Aの財源	森林税	6,566	10,600	18,000			35,166	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)	6,566	10,524				17,090		
次年度への繰越額(外数)	0	0				0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①取組を行う市町村	目標値	①	10市町村	10市町村	10市町村		51市町村	重複を除いた実数の累計
		②						
		③						
	実績値	①	5市町村	6市町村			11市町村	
		②(実数累計4市町村)	(実数累計7市町村)				(実数累計7市町村)	
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 目標に対する達成状況:60% 松くい虫枯損木を丸太で移動する事となることから、松くい虫被害のまん延防止に配慮、アカマツ林施設指針に基づく移動可能期間の制約により、事業実施市町村が限られた。 (副次的な効果) 社会福祉法人と連携した事業の実施(薪の生産) 公園周辺の散策路では被害木を林内へ集積すると、景観が損なわれると危惧していたが、搬出したことで、景観美化に貢献、散策路の開放に寄与した。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	・コロナウイルス感染症の影響で、木材流通が停滞している中、木材流通の可能性はあるのはバイオマスくらいしか考えられないところなので、アカマツ枯損木のバイオマスへの利用を期待する。 ・コロナの影響で素材生産から、造林などの仕事へシフトしなければと思案中であったが、松くい虫の枯損木利活用事業に市町村だけではなく林業事業者も入っていける制度はありがたいと感じている。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	枯損後数年経過した立木については、チップへの活用が出来ず、林地残材となった。 入浴施設の加温用ボイラーに供給したが、小規模なため、需要に限られた。 枯損木がFITの未利用材の区分でないため、発電施設との調整が必要。	木質バイオマス発電施設が令和2年に稼働を予定していることから、近隣への運搬が可能となり、引き続き事業を推進。 事業主体に事業者を追加することで、さらなる里山のアカマツ枯損木の利活用が期待される。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑩里山整備利用地域リーダー育成事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	山村地域における過疎化や高齢化等が急速に進行し、森林管理の空洞化も深刻さを増していることから、住民協働による里山の整備・利用を推進することが必要であり、それを支える地域の人材の活用と育成が重要である。
目指す姿・成果目標	森林の整備や多面的な活用を推進するリーダーや多くの関係者をコーディネートする人材を育成するとともに、NPOや自主的な森林づくりに取り組む方々など森林づくりに関わる人々の力を結集し、地域主体の持続的な森林の整備利用を推進する。 ・地域リーダーの育成 概ね150人程度/5年間 ・森林の整備利用に携わる人材の育成 概ね4,500人程度/5年間

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の利活用や木育など、多様なテーマを設定した研修会を開催した。 ・地域リーダーとなる人材をはじめ、里山管理活動を担う地域住民も参加した安全技術取得のための研修を実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	地域リーダー、里山管理人材の育成研修	長野県	研修会 24回	1,650,513円 [1,650,513円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0			
予算額	当初予算	2,751	2,611	2,621			7,983	
	補正予算	-1,340	-521				-1,861	
	合計(A)	1,411	2,090	2,621			6,122	
Aの財源	森林税	1,411	2,090	2,621			6,122	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		623	1,651				2,274	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①地域リーダー ②里山管理利用人材	目標値	①	30人	30人	30人		150人		
		②	900人	900人	900人		4,500人		
		③							
	実績値	①	30人	20人				50人	
		②	220人	739人				959人	
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内各地で研修・講習会等を24回開催し、計739名が参加した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた講習会の一部は開催できなかった。 <p>(副次的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者へのアンケート調査の実施により、幅広い参加者層の関心やニーズを把握することができた。 ・地域間の人材交流により、先進的な取り組みが他地域に波及することが期待される。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・森林づくりに関わる人材育成が組み込まれているのは評価できる。 ・この取り組みに関わる人材がSDGsの視点も持ちながら活動できるようになれば、広い視野を持って環境整備を考えることにつながるのではないか。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会等の開催状況は地域間で偏りがあるため、潜在的なニーズを把握し講習会の企画につなげるとともに、地域間の人材交流等によりノウハウを広げていくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の整備や利活用に関する具体的なノウハウの共有、蓄積を進めるため、既に活発に活動している里山整備利用地域の関係者に講師役をお願いすること等により、他地域への広がりや新たなリーダーの育成を図る。 ・長野県林業士等の既存の人材の活用と併せて、各地域のニーズとのマッチングを図る。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	①森林セラピー推進支援事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成、4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	本県の豊かな森林資源や森林空間を維持していくには、多様な県民ニーズに応え、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要である。とりわけ、「森林セラピー」は、農林業・観光・医療の各分野の連携が可能であり、森林の利活用と地域の活性化策として期待されている。
目指す姿・成果目標	全国64箇所の基地のうち、県内に10箇所(最多)が所在する「森林セラピー県」として、森林セラピーの利用を促進するため、関連する産業(観光、健康、環境、産業)との連携の強化とセラピー基地等の魅力向上を図る。 ・コーディネーターの育成 ・森林セラピー基地の整備 全10箇所/5年間

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・森林セラピー基地等協議会を開催し、基地間の情報共有を図るとともに、人材育成や施設整備の方向性等の検討を行った。 ・森林セラピーのコーディネーター等の育成のための研修を行うとともに、基地の安全性と利便性の向上を図るための修景林整備(支障木等の伐採)や歩道・看板等の施設整備を実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ・森林セラピー基地等協議会の開催 ・コーディネーター等の育成研修 ・施設整備 	長野県市町村	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会:3回 ・コーディネーター等育成研修:計8回 ・施設整備:6箇所 	12,656,446円 [12,656,446円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0			
予算額	当初予算	17,521	38,309	20,700			76,530	
	補正予算	0	-21,272				-21,272	
	合計(A)	17,521	17,037	20,700			55,258	
	Aの財源	17,521	17,037	20,700			55,258	
Aの財源	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
	決算額(B)	16,662	12,656				29,318	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①コーディネーター育成 ②森林セラピー基地の整備	①					10人	
	②	実施4箇所	実施9箇所	実施6箇所		10箇所	
	③						
実績値	①	-	-				
	②	実施6箇所	実施6箇所			実施12箇所	
	③	(実数累計6箇所)	(実数累計8箇所)			(実数累計8箇所)	重複を除いた実数の累計

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林セラピー基地等協議会において、木島平村・阿智村・南箕輪村の方向性を議論し次年度へのつながりが図れた。 ・森林セラピー基地の整備は6箇所において実施した。コーディネーター育成研修を2回開催、約30名が受講した。 <p>(副次的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド育成研修及び施設整備の実施により、各基地の利用者受け入れ体制の整備が進んでいる。 ・事業の実施を通じ、コーディネーターやガイドを活用した森林セラピー基地の利用者の増加(H29 6,500人→H30 7,023人)が見られる。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・森林づくりに関わる人材育成では、SDGsの視野を持ちながら活動できると広い視野での環境整備に繋がるのでは。 ・コーディネーターの育成の形や、地域での活動などコーディネーターに求める役割を明確に。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い森林セラピープログラムの提供を行うための人材育成が必要。 ・施設の老朽化が見られるため、施設整備への要望が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の協議会での検討を踏まえ、各基地の中核的な役割を担うコーディネーターを育成する。 ・ガイドについては、観光部・環境部と育成の連携を行うとともに、レベルの検討、開催地の検討活躍の場の創出を行うことにより幅広く受講者を確保できるよう取り組む。 ・基地毎の事業量も精査しつつ、必要な施設整備を実施する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑫エコツーリズムガイド人材育成事業	部局	環境部	課・室	自然保護課
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成	実施期間	R1 ~	E-mail	shizenhogo@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2. 0)					
8つの重点目標	—				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり 4-5 地球環境への貢献				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の強みである豊かな森林資源や森林空間を維持していくには、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要 ・エコツーリズムなど、森林資源を有効に活用し、観光や健康、環境、教育等の他産業と結び付け、地域を支える多様な産業や交流を創出できる人材を育成することが必要
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズムガイドの育成 80名/4年間 【取組により期待される効果】 ・自然環境保全意識の向上 ・周遊型観光の促進と県内知名度の向上

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・森林をはじめとした自然資源を持続的に活用できる人材を育成し、自然体験の機会の充実を図るため、エコツーリズムガイド育成研修会を霧ヶ峰自然保護センターで開催した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 〔うち森林税活用額〕
	エコツーリズムガイド研修会の開催	長野県	・研修会開催:3日間	1,539,500円 [1,539,500円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
	予 算 額	前年度繰越		0	0			0	
当初予算			1,672	1,564			3,236		
補正予算			0				0		
合計(A)			1,672	1,564			3,236		
Aの 財源		森林税		1,672	1,564			3,236	
		国庫支出金		0	0			0	
		その他		0	0			0	
決 算 額(B)		1,540				1,540			
次年度への繰越額(外数)		0				0			

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①エコツーリズムガイドの育成	目 標 値	①				▶ 80名		
		②						
		③						
	実 績 値	①		29名			29名	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズムガイド研修会を開催したところ、29名の参加があった。 <p>(副次的な効果) ・参加者同士の交流が生まれ、関係者が連携した取組に発展することが期待される。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・育成した人材がSDGsの視点を持ちながら活動できれば、広い視野を持って環境整備を考えることにつながるのではないかと。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課 題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度以降の事業実施にあたっては、研修会参加者の意見も踏まえ、研修会のカリキュラムを検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイド研修会を引き続き開催し、人材の育成を行う。 ・研修会については、開催内容を検討し、早期の募集・周知を行うことで、多くの受講者を確保できるよう取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑬ 自然教育・野外教育推進事業	部局	教育委員会	課・室	学びの改革支援課
事業区分		3 森林づくりに関わる人材の育成	実施期間	R1 ~	E-mail
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	1-1 生きる力と創造性を育む教育の推進 1-2 地域とともに取り組む楽しい学校づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな長野県に住んでいても、子供の自然体験の頻度は全国と同じ。 ・家の中で、体力を使わず、他者との交流が少ない時間を多く過ごしている。 ・子供の学校外での自然体験活動への参加は二極化し、経験の格差が広がる。
目指す姿・成果目標	信州ならではの豊かな自然を教育資源と捉え、幼保小中高を通じて自然の中での直接体験や仲間とふれあい、自然からの学びをとおして、社会の急激な変化に適応し、たくましく「生き抜く力」を育成する。 モデル的に自然教育プログラムを実施する学校30校/5年間

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	本県の強みである豊かな自然の特性を生かし、子どもたちの「自然を通して生き抜く力」「自然を大切にできる心」を育むため、モデル校において自然教育・野外教育プログラムの実践検証を行い、成果の普及を図った。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	プログラム実践(モデル校へのプログラム指導者の派遣) プログラムの評価・検証・改善	長野県教育委員会	モデル校指定6校 プログラム検証会議実施による プログラム評価検証	241,496円 [241,496円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		予算額	前年度繰越		0	0		
			1,163	1,794			2,957	
			0				0	
	合計(A)		1,163	1,794			2,957	
Aの財源	森林税		1,163	1,794			2,957	
	国庫支出金		0	0			0	
	その他		0	0			0	
	決算額(B)		241				241	
	次年度への繰越額(外数)		0				0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①モデル校による自然教育・野外教育プログラムの実践検証	目標値	①	モデル校指定8校	プログラム推進校14校程度			30校	
		②						
		③						
	実績値	①	モデル校指定6校				6校	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) <ul style="list-style-type: none"> ・モデル校6校を指定し、各校でプログラムを実践 ・延べ15名の外部指導者を派遣 (副次的な効果) ・これまでボランティアとして学校とかかわってきている各種団体の外部指導者への支援。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの心に故郷の自然を刻むには体験が必要である。様々な自然の中での体験を大切にしたい。 ・教育の一環として、自然と触れ合う取組は、子供たちの成長にどのような効果があるのか知りたい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然教育・野外教育プログラムの充実 ・実践校の拡大 ・外部人材リストの作成と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度は、プログラム推進校として、外部指導者を利用してプログラムを推進する学校を募集。前期後期2期に分けて募集をする予定。 ・外部人材のリスト化を進める。 ・プログラム推進校の取組を周知。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑭学校林等利活用促進事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用	実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの頃に自然の中で遊んだりする経験が多いほど、自己肯定感が高くなる傾向があるという調査研究報告があることから、教育における森林の利活用を推進することが必要であり、手入れがされてこなかった学校林については、整備し利活用していくことが必要。 学校林は森林の多面的機能を学ぶ貴重な場であり、身近に森林がある本県の特徴を活かし、自然・野外教育を推進することが必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 長期間未整備のため利用困難な学校約60箇所程度/5年間の学校林を整備【取組により期待される効果】 森林を活用した森林環境教育の充実及び安全性の確保

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	周囲を森林に囲まれた長野県で学ぶ児童・生徒の森林・林業への親しみや理解を深め、学校林を活用した森林教育を推進するため、手入れが放置され利用困難になっている学校林を整備するとともに、整備後の学校林での活動を支援した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	学校林の整備(除間伐等)	市町村、学校、PTA等	学校林の整備等 11箇所	9,447,101円 [9,447,101円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		予算額	前年度繰越	0	0	0		
	当初予算	12,550	17,975	17,975			48,500	
	補正予算	-8,000	-7,875				-15,875	
	合計(A)	4,550	10,100	17,975			32,625	
Aの財源	森林税	4,550	10,100	17,975			32,625	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
	決算額(B)	4,010	9,447				13,457	
	次年度への繰越額(外数)	0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①長期間未整備のため利用困難な学校林を整備	目標値	①	16箇所	16箇所	16箇所		60箇所	重複を除いた実数の累計
		②						
		③						
	実績値	①	6箇所	11箇所			17箇所	
		②(実数累計6箇所)		(実数累計16箇所)			(実数累計16箇所)	
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) <ul style="list-style-type: none"> 11校の学校林において、子供が安全に学校林で活動するため、危険木の除去や除間伐、歩道の整備等を実施した。 7校の学校林において、学校林の利活用に必要な資機材の導入や指導者の派遣を行った。 (副次的な効果) <ul style="list-style-type: none"> 学校林整備の過程を児童生徒が見学、体験することで森林環境教育の機会となっている。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 学校の先生方の管理で整備することは難しいので、事業者やNPO法人等につなげてほしい。 木の命をいただき森を循環すること等を学んだ子供たちが増えていって、長野県の新しい価値に繋がっていくのではないかと。そうした取り組みをもっとSNS等を使って情報発信してほしい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	学校林や学校周辺の森林環境を十分に利用できていない学校はまだ多数あるため、更に事業の周知を図る必要がある。整備後の学校林を継続的・効果的に利活用していくため、学校や地域の支援者へのノウハウの蓄積が求められる。	これまでの取組の学校林整備や利活用の事例を分かりやすい事例集として整備し、事業の周知とニーズの把握を図る。令和元年度から始めたヘルメット等の資機材の導入及び指導者の派遣についても引き続き支援を行い、学校林の効果的な活用を推進する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑭自然保育活動フィールド等整備事業	部局	県民文化部	課・室	こども・家庭課
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	合計特殊出生率				
総合的に展開する重点政策	5-4 若者のライフデザインの希望実現				

1 事業の概要

現状	・県独自の制度である「信州やまほいく(信州型自然保育)認定制度」による認定園において、森林での保育・教育活動の安全性確保や、教育環境の充実が必要。
目指す姿・成果目標	・整備が必要な森林を自ら所有又は賃借して使用する認定園等、約25園程度/5年間の整備 【取組により期待される効果】 ・信州やまほいく認定園の増加

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	・森林整備(林間整備、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、危険木の除去、倒木・折損木処理) ・トイレの設置、チップ敷き、歩道整備等			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	・遊歩道、木道整備 ・危険木の除去、ウッドチップ敷設 ・付帯施設(トイレ、東屋等)の整備等	信州型自然保育認定園	・フィールド整備 4箇所 ・付帯施設整備 2箇所	4,601,800円 [4,601,800円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0			
予算額	当初予算	5,325	5,325	5,325			15,975	
	補正予算	0	0				0	
	合計(A)	5,325	5,325	5,325			15,975	
Aの財源	森林税	5,325	5,325	5,325			15,975	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		4,623	4,602				9,225	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
信州やまほいく認定園の活動フィールドの整備 約25園程度/5年間	目標値	①	8園	8園	8園		25園	
		②						
		③						
	実績値	①	9園	5園(6カ所)			14園	
		②	(実数累計9園)	(実数累計11園)			(実数累計11園)	
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 要望があった5園でフィールド整備4カ所と付帯施設整備2カ所を実施。 (副次的な効果) 自然保育を行う上で、障害となっている危険木の除去や、落下の恐れのある枝の剪定を行うことで、「子どもたちが安全に自然保育を行うことができるようになった。」など感謝の声を多くいただいた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	なし
-----------------	----

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	今後も引き続き、認定団体に対し制度の周知等を行い、制度の普及促進につなげる必要がある。	早期の事業募集、交付決定を行い、また広く認定園に対して周知し、積極的な活用を呼びかけたい。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑮まちなかの緑地整備事業	部局	建設部	課・室	都市・まちづくり課
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-5 市街地の活性化と快適な生活空間の創造				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・全国都市緑化信州フェアを契機に、市街地においても、木々に親しめる緑地整備を集中的に推進することが必要。 ・加えて、市街地の緑地は、ヒートアイランド現象の緩和や大気浄化などの生活環境の保全に寄与するとともに、安らぎや癒し効果により快適な暮らしを支え、長野県らしい景観を提供することから、適切な整備が必要。
目指す姿・成果目標	県民協働による市街地の緑化整備 概ね25箇所程度/5年間 【取組により期待される効果】 <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかに木々を身近に感じられる魅力的な緑地が創出されることによる、都市の魅力の向上。 ・活動・交流の場としての利用によって地域の元気づくりを推進するとともに、緑化に関する人材発掘・育成等によって持続可能な緑化を推進。

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	・市街地における木々に親しめる緑地の整備を集中的に推進するため、市町村及び民間団体が行う緑地の整備を支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	緑地整備(樹木・芝等の植栽、花壇・ベンチ等の施設整備)	市町村 民間	緑地整備 2箇所	3,750,000 円 [3,750,000 円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		予算額	前年度繰越	0	0	0		
	当初予算	4,000	5,750	2,000			11,750	
	補正予算	-2,082	-2,000				-4,082	
	合計(A)	1,918	3,750	2,000			7,668	
Aの財源	森林税	1,918	3,750	2,000			7,668	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
	決算額(B)	1,760	3,750				5,510	
	次年度への繰越額(外数)	0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①市街地の緑化整備	目標値	①	4箇所	4箇所	2箇所		概ね25箇所程度		
		②							
		③							
	実績値	①	4箇所	2箇所				6箇所	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 2箇所の緑地整備を実施することで魅力的な緑地が創出され都市の魅力向上に寄与した。 (副次的な効果)
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	なし
-----------------	----

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	2カ年を経過し、事業実施に至ったのは3市のみである。	令和元年度までの成果等を検証し、事業の見える化、他地域への拡大に取り組む。 ・事業実施事例をホームページ掲載等により広報する。 ・事業者アンケート等を行い、事業の改善点を把握する。 ・市町村に制度の説明や事例を紹介し、事業の活用を推進する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑩観光地の景観整備（県単道路橋梁維持修繕費）	部局	建設部	課・室	道路管理課
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用	実施期間	H30～	E-mail	michikanri@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上が不可欠。 地域の景観に合致した街路樹の整備等が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 街路樹等の整備を行う街路延長 概ね延べ40km程度/5年間 【取組により期待される効果】 観光地の魅力向上による観光利用者の満足度の向上 街路樹剪定の実施にあたっては「街路樹剪定士」資格保有者による作業を要件とし、資格保有者の拡大を促すとともに、モデル事業として剪定技術に関する講習会など、街路樹管理技術向上の醸成を図る。

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	山岳高原リゾートを形成する観光地周辺等の街路において、景観形成のための街路樹の整備を実施した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	観光地周辺の街路樹整備	長野県	街路樹整備13km	40,000,000円 [40,000,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越		0	0	0			0
当初予算			16,000	20,000	20,000			56,000	
補正予算			0	20,000				20,000	
合計(A)			16,000	40,000	20,000			76,000	
Aの財源	森林税		16,000	40,000	20,000			76,000	
	国庫支出金		0	0	0			0	
	その他		0	0	0			0	
決算額(B)		16,000	40,000					56,000	
次年度への繰越額(外数)		0	0					0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①街路樹整備	目標値	① 延べ10km	延べ10km	延べ10km			延べ40km		
		②							
		③							
	実績値	①	14km	13km				27km	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> 国営アルプスあづみの公園や諏訪湖など観光地周辺の街路等をはじめ、ビューポイント整備に資する街路樹整備を実施し、観光地の魅力向上に繋がった。
	(副次的な効果)	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施箇所では森林づくり県民税を活用している旨の看板等の設置を行い、森林づくり県民税の周知及び理解の推進にも取り組むことができた。

県民会議・地域会議等からの意見	なし
-----------------	----

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 観光地周辺の街路樹整備による成果の検証や広報に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光地魅力向上のため、周辺の街路樹整備を推進する必要性が高まっており、可能な範囲で予算を拡充して対応したい。 地域住民や観光関係者へのアンケート等を通じて成果を検証するとともに、ホームページ等の広報を積極的に行い、広く周知に努める。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑩観光地等魅力向上森林景観整備事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上が不可欠。 地域の景観に合致した間伐の実施や、地域の特性・ニーズに合わせた間伐、除伐、竹林整備等が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域の景観に合致した間伐等 概ね110ha程度/5年間【取組により期待される効果】 観光地の魅力向上による観光利用者の満足度の向上

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を推進し、観光地等の魅力向上を図った。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 景観整備 ビューポイントの樹木の伐採 	市町村	26箇所計43haの事業を実施	43,478,700 円 [43,478,700 円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0			0
当初予算		7,605	35,000	35,000			77,605	
補正予算		0	0				0	
合計(A)		7,605	35,000	35,000			77,605	
Aの財源	森林税	7,605	35,000	35,000			77,605	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		7,605	43,479				51,084	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①地域の景観に合致した間伐等	目標値	①	17ha	29ha	29ha		110ha	
		②						
		③						
	実績値	①	11ha	43ha			54ha	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・各地域から予算を大きく上回る要望が寄せられ、翌年度以降の計画を前倒しして事業を実施した結果、目標を大きく上回る実績を上げることができた。</p> <p>(副次的な効果) ・観光地としての魅力が向上しただけでなく、地域の関係者にとっても里山に改めて関心を持つきっかけとなっている。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	なし
-----------------	----

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光地の景観を損ねている森林や、高速道路沿線の松くい虫被害木(枯損木)対策など、本事業のニーズは依然として県内各地で高い状況にあり、予算を上回る要望が寄せられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業効果の早期発現の観点から、必要に応じて計画を前倒しして事業を実施することで、本県の豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図る。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑰森林づくり推進支援金	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	5 市町村に対する財政調整的視点での支援				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・広い県土を有する本県においては、各地域の様々な課題に応じて市町村が行う森林整備等の取組が不可欠。 ・森林を多く抱える山間部の町村は、総じて人口が少なく財政規模も小さいことから、財政調整的な支援は不可欠。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての市町村で地域固有の課題の解決の取組が行われること。 【取組により期待される効果】 ・身近な課題解決への取組による森林への関心の向上。 ・身近な里山などの森林整備や木材利用が図られる。

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・森林に関する各地域の様々な課題解決のために市町村が独自に行うきめ細やかな取組を支援し、事業実施後は市町村において成果の把握・検証を行った。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	市町村が行う身近な課題解決のための森林づくりの取組	市町村	実施市町村数 77市町村	88,870,000 円 [88,870,000 円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0			0
当初予算		90,000	90,000	90,000			270,000	
補正予算		0	0				0	
合計(A)		90,000	90,000	90,000			270,000	
森林税		90,000	90,000	90,000			270,000	
国庫支出金		0	0	0			0	
その他		0	0	0			0	
決算額(B)		89,978	88,870				178,848	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①実施市町村数	目標値	① 77市町村	77市町村	77市町村			77市町村	
		②						
		③						
	実績値	① 77市町村	77市町村				77市町村	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・国・県の補助事業対象とならない松くい虫対策や、野生鳥獣被害防止のための緩衝帯整備等、各地域の様々な課題に応じた独自の取組が全ての市町村で行われた。
	(副次的な効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村における地域課題の検討や、課題解決のための取組及びその内容についての情報発信に一定の進展があった。

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村が行う検証評価は、数字を用いて客観的に示してほしい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施後に市町村は、みんなで支える森林づくり地域会議の意見も踏まえながら検証評価を行い、その結果を翌年度以降の事業に反映させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検証評価の結果を踏まえながら、必要に応じて事業の改善を行っていくことで、より効果的に地域課題の解消につなげる。 ・引き続き、市町村が行う計画作成や検証評価の際には、県が指導・助言を行う。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑩みんなで支える森林づくり推進事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H20～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県民アンケートでは、森林税の使途が分からないと回答した方が73.5%に及び、特に若年層の理解が広がっていないことから、より積極的かつ効果的な広報が必要。 チェック機能を強化しつつ、引き続き県民会議、地域会議による森林税を活用した事業の評価・検証が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 森林税の使途の認知度30% 【取組により期待される効果】 森林税を活用した取組の増加

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> テレビ、ラジオ、SNS、イベント等による広報及び森林税の見える化を図るため地域の実情に応じた広報・普及啓発を実施。 森林税活用事業の内容や実施結果の評価検証に対して意見を聴くため、県民会議及び地域会議を開催。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット、ラジオ等でPR 学校の森・子どもサミットを開催 各地域の広報誌・イベント等でPR 県民会議、地域会議の開催 	長野県	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ番組(AM,FM)を10回放送 11/2に伊那市において「学校の森・子どもサミット」を開催 県民会議2回、地域会議17回開催 	7,677,866 円 [7,677,866 円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0			0
予算額	当初予算	10,000	10,000	11,181			31,181	
	補正予算	0	0				0	
	合計(A)	10,000	10,000	11,181			31,181	
Aの財源	森林税	10,000	10,000	11,181			31,181	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		8,489	7,678				16,167	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①森林税の使途の認知度	目標値	①	30%	30%	30%		30%		
		②							
		③							
	実績値	①	45.5%	43.6%				43.6%	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・令和2年2月に実施した県政モニターアンケートによると、森林税の使途の認知度は43.6%と目標を大幅に上回った。</p> <p>(副次的な効果) ・様々な媒体の活用や「学校の森・子どもサミット」の開催など、幅広い世代を対象に森林税の広報を行ったことで、森林の重要性や森林整備の大切さなどを多くの県民が認識することにつながった。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 森林税の周知が十分とは言えず、広報が課題。 森林税を活用した現場において、看板により森林税の活用をPRしてはどうか。 SNSを活用したPRも積極的に進めるべき。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、森林税の認知度を向上させるための取組を継続する必要がある。 特に認知度が低い傾向にある、若者や女性の認知度を高めるための広報が必要。 これまでの取組の成果を県全域に波及させることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を基に、広報効果が高い媒体を活用して、より効果的な広報活動を実施する。 動画やSNS等を活用して、若者や女性の認知度を高めるための広報を実施する。 H30、R1の2年間の成果を踏まえた広報活動を行い、森林税を身近に感じることのできる広報に努める。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	⑱森林(もり)の里親促進事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H15～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	近年、温暖化防止等の社会貢献や、福利厚生などを目的とした企業の森林づくりへの関心が高まっていることから、こうした企業による森林づくりを推進し、森林整備や都市部と山村の交流、森林への理解の促進を図ることが効果的である。
目指す姿・成果目標	県が仲介役となって、森林づくりへの参画を希望する企業のニーズに応じて地域とのマッチングを行い、「森林(もり)の里親」契約を締結する。 ・企業・団体等と地域との協定の締結 25件/5年

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新規契約の締結の掘り起こしに向けて企業訪問や首都圏での企業向け講座を開催した。 ・企業のニーズを踏まえて、地域とのマッチングを実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との現地調査等 ・契約前のプレ活動 ・企業向け講座の開催 	長野県	新規契約 5件	155,059円 [155,059円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		予算額	前年度繰越	0	0	0		
	当初予算	1,002	1,002	1,002			3,006	
	補正予算	0	0				0	
	合計(A)	1,002	1,002	1,002			3,006	
Aの財源	森林税	1,002	1,002	1,002			3,006	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
	決算額(B)	749	155				904	
	次年度への繰越額(外数)	0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①新規契約件数	目標値	①	5件	5件	5件		25件		
		②							
		③							
	実績値	①	5件	5件				10件	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 企業のニーズに応じて、県が仲介役として地域の選定や受け入れ体制の調整を行うことで、目標の5件の契約を達成できた。</p> <p>(副次的な効果) 企業との連携により森林づくりを行うことで、企業の社員と山村地域との交流を促すとともに、地域住民にとっても森林づくりに関心を持つ契機となった。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	・森林の里親制度の活動について、地元へ上手く伝わっていない。県より身近な各地域の地域振興局が紹介ツール等を使い、目に見える形で紹介できればより活性化が推進されると思われる。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・累積契約件数が増加するに従い、里親となる企業のニーズに合った整備候補地選定に時間を要する傾向が強まっている。 ・全国的に同様の事業を実施しており、個々の企業への働きかけだけでは、新規契約を確保することが困難な面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山整備利用地域も含め、地域が主体的な活動を展開している地域を中心に、新たな受け入れ団体の掘り起こしを行う。 ・個々の企業に加え福利厚生団体など、多様な企業が参画している団体への働きかけを行う。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	②地球温暖化防止木材利用普及啓発事業	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	—				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につながっていくことが重要。 県産材を使うことが地球温暖化防止につながることを広くPRすることが必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 個人住宅や企業等の木質化でのCO2固定量の認証量:500t-CO2/年【取組により期待される効果】 県産材利用の促進

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	県産材を使用した住宅や事業所の木造・木質化、木製品の二酸化炭素固定量を認証し、認証証書を発行。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	県産材住宅の施主や店舗等を木造・木質化した企業等に対し、県産材利用によるCO2固定量を認証。	長野県	認証量 205t-CO2 (認証件数 6件)	246,436円 [246,436円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0			0
予算額	当初予算	565	567	400			1,532	
	補正予算	0	0				0	
	合計(A)	565	567	400			1,532	
Aの財源	森林税	565	567	400			1,532	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		235	246				481	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①CO2認証固定量	目標値	①	500t-CO2	500t-CO2	500t-CO2			設定なし
		②						
		③						
	実績値	①	354t-CO2	205t-CO2				559t-CO2
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 令和元年度の実績は、個人住宅の認証件数の減により、前年度の実績(認証件数9件、認証固定量354t-CO2)を下回った。(※令和4年度まで5か年の成果目標は設定なし)</p> <p>(副次的な効果) 認証を受けた企業が環境貢献の一環として広報することにより、認証制度や木材利用の普及につながった。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 県産材利用を進めるため、広く認証制度等の啓発活動に取組んでほしい。 公共建築等に偏りがあり、民間住宅の申請が少ない。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 本制度による認証取得が事業採択要件である「木造公共施設整備事業」の実施件数の減に伴い、認証の申請件数が減少。 工務店や県民等に制度が十分に浸透していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 木づかい空間整備事業をとおして事業者の県産材利用のPRを図りながら、本事業の申請を促し、申請件数の増加を図る。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和元年度事業分）

事業名	②地球温暖化防止吸収源対策推進事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証	実施期間	H20～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	・地球温暖化防止のための吸収源対策を企業の社会的貢献活動の一環として取り組もうとするニーズが高まっている。
目指す姿・成果目標	・間伐等の森林整備によるCO2吸収量の評価方法を定め、企業等の森林整備活動をCO2吸収量で知事が評価・認証することにより、一層の企業等の参画による森林整備を促進する。

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	・民間企業等のCSR活動を「見える化」するため、「森林(もり)の里親促進事業」で間伐等を実施した森林のCO2吸収量を県が評価・認証した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和元年度決算額 [うち森林税活用額]
	・森林のCO2吸収量認証	長野県	・CO2吸収量認定量 1660t-CO2	44,709円 [44,709円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
	予 算 額	前年度繰越	0	0	0			0	
当初予算		471	375	375			1,221		
補正予算		0	0				0		
合計(A)		471	375	375			1,221		
Aの財源		森林税	471	375	375			1,221	
		国庫支出金	0	0	0			0	
		その他	0	0	0			0	
決算額(B)	129	45				174			
次年度への繰越額(外数)	0	0				0			

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①CO2吸収認定量	目標値	①	4,000t-CO2	4,000t-CO2	4,000t-CO2		設定なし		
		②							
		③							
	実績値	①	2,010t-CO2	1,660t-CO2				3,670t-CO2	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 実績は目標の吸収量を下回る結果となったが、H20より継続して行われている事業であり、森林(もり)の里親企業等に対しある一定の認知が図られてきていると考えられる。 (副次的な効果) 本認証制度活用により、企業等は、CSR報告書への記載やPRが可能となり、企業等のイメージ向上につなげられる。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	なし
-----------------	----

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	今後も、引き続き森林(もり)の里親企業等に対し、制度の認知・普及の促進を図りながら事業を進めていく必要がある。	「森林(もり)の里親」企業等を対象に、森林の大切さや、森林の二酸化炭素が地球温暖化防止に果たす役割等に関する普及啓発を行い、「森林CO2吸収評価制度」の活用促進を図る。